

# 議 事 録

会 議 名	第 3 3 回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	平成 2 8 年 1 2 月 1 日 (木) 午後 3 時 3 0 分 ~ 午後 5 時	
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎 1 4 階 1 4 A 会議室	
出 席 者	環境審議会 委 員	角田充由委員, 郷間康久委員, 駒場昭夫委員, 舟本肇委員, 伊藤直次委員 (会長), 今井清人委員, 飯野貴道委員, 芝野三郎委員, 高橋啓子委員, 岩戸肇委員, 北村里美委員, 三宅徹治委員 (副会長), 橋本透委員, 江島ゆり子委員, 久我臣仁委員
	欠 席 者	黒沢良夫委員, 近澤幸嗣郎委員, 前橋明朝委員, 金枝右子委員
	事 務 局	環境部長, 環境部参事, 環境部次長, 環境部副参事, 環境政策課長, 環境保全課長, 廃棄物対策課長, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 環境部総務担当主幹, 環境政策課課長補佐, 環境政策課職員 6 名, 環境保全課職員 2 名, ごみ減量課職員 1 名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者 0 名, 記者 0 名	
会議概要	1 開会 2 会長選出 ⇒ 「環境審議会規則」第 4 条第 1 項の規定により, 審議会の会長は 委員の互選により定める。⇒ 伊藤直次委員 (会長) が選出 3 議事 宇都宮の環境 (環境状況報告書 平成 2 8 年度版) について ⇒ 了承 4 その他 5 閉会	

発言要旨

会長 審議事項の 宇都宮市の環境（環境状況報告書 平成28年度版）について、事務局より説明をお願いする。

事務局 ー 資料に基づき説明 ー

会長 以上の事務局の説明について、ご質問、ご意見があればご発言をお願いする。

委員 まず、今回の環境状況報告書について、指標等の推移のみの掲載ではなく、施策や事業の実施状況、着手状況を盛り込むなど、前回よりも改善されていると思う。政策の実現の度合いを把握する上で意義深いものであると感じる。

質問であるが、まず、資料1の3ページ目の「取組状況の確認結果」の表で、例えば「生活環境」と「人づくり」の分野の事業について、平成28年度からの新規事業数がゼロとなっており総事業数も22, 27と他に比べ半分程度である。事業数として少ないこの2分野に対して拡充する予定はあるのか、今後の展開を教えてください。

次に、参考資料1の指標一覧についてである。次の5つの指標は非常に数が少ない中で進捗を確認することになるため、今後もこのまま進めるのか参考までに確認したい。

まず1点目は、環境分野1の「地球環境」の「No.5 環境に配慮した市のイベント等の開催数」についてである。平成21年度の1か所から平成27年度の実績値で12か所となっているが、市内の地区ごとに実施してもこれ以上は増える事が無い状況である。これを指標として良いのか。

2点目、3点目は、環境分野3の「自然環境」の「No.15 景観形成重点地区等の指定」と「No.16 文化財保存団体数」についてである。No.15については、景観形成重点地区の指定数が2地区から6地区となっているが、指定には、市が長期の時間、検討を行う必要があり、必要な環境がないと増えていかない。また、No.16についても文化財保存団体数が、これ以上大幅に増えることはないと思うので、指標としての捉え方に無理はないのか。

4点目、5点目は、「No.20 宇都宮市環境協定締結事業者数」と「No.22 宇都宮市まちづくりセンター登録団体数（環境分野）」について、団体数または事業者数で指標を捉えることになっているが、「生活環境の保全」及び「環境保全活動の促進」の推移を見る上で、この指標が適正であるのか。他の指標は、数値も多く分かりやすいので、この部分の指標の捉え方を伺いたい。

最後に、別冊の「宇都宮の環境（平成28年度版）」の中で36ページに生物多様性に関連する項目があるが、「3-1-2 生きものとその生息・生育環境の保全の推進」の指標として、「外来種の影響に関する認知度」が挙げられているが、値に横線が引かれている。これから調査するため、平成28年度が事実上のスタートとなると思われるが、基準となる比率は、しっかり把握してもらいたい。

また、基本事業として「(1) 動植物の生息・生育環境の保全」、「(2) まちづくりに合わせた自然環境の保全の推進」、「(3) 自然環境に配慮した暮らしの推進」で構成されているが、これらの事業の指標として「外来種の影響に関する認知度」は適切なのか。以上、3項目の説明をお願いする。

事務局	<p>まず取組状況についての意見をいただいたが、別紙1の「環境状況報告書の構成に係る新旧比較表」を確認すると、指摘のとおり昨年度までの旧の状況報告書は、分野に係る指標に基づく状況が主であった。今回は、指標に基づく状況に加えて重点戦略と分野別の進捗状況についても、その指標の状況プラス取組状況という形でまとめた。これは、国の環境白書についても同様な形で進められており、確実に状況を把握して行きたいと考えている。</p> <p>質問の1つ目の、分野別の施策の取組状況について、生活環境及び人づくり分野での事業数が少ないのではないかとということであるが、これは、策定段階において様々な環境の現状を分析し、その中で特に「人づくり分野」で、環境教育や環境保全活動は環境学習センター等を中心に十分に実施されていると評価されており、それを踏まえ、同数の事業数で継続という形にまとめた。また、「生活環境分野」で、特に公害に関する保全関係の事業についてはその多くが、環境基準に則した取組であるため、引き続き実施することにより、現状を維持できる事から同数の活動という形にした。</p>
事務局	<p>質問の2つ目は指標についてであるが、指標のあり方については、これまでの審議会の中でも議論をいただいてきたところである。その議論を踏まえ、第3次環境基本計画に引き継ぐもの、新たな指標に置き換えるものなどの作業を計画改定時に行ってきた。</p> <p>それを踏まえて3つ目の質問であるが、外来種の影響に関する認知度については、指標の改善を図ったひとつである。今後これらの指標が適切に動向を把握できるのかについては、第3次環境基本計画を始めて進行管理の状況を確認しないと分からない部分もあるため、まずは5年間新しい指標で評価を行いたいと考えている。</p> <p>また、指標の捉え方については、例えば状況報告書の中に、この指標はどのような考えで数値を取ったものであるかの説明を付け加えるなど、対応を検討して行きたいと考えている。</p>
事務局	<p>補足の説明であるが、特に第3次環境基本計画の指標については、全体として数値が確認できるものを設定している。</p> <p>このたび、第3次環境基本計画と併せて、個別の分野別計画を改定、策定しており、例えば地球環境分野では「宇都宮市地球温暖化対策実行計画」、ごみ関係では、「一般廃棄物処理基本計画」、生物多様性では「うつのみや生きものつながりプラン」が挙げられる。それぞれの個別計画の中で指標を設定し、その代表的なものを第3次環境基本計画の指標として連動させて行くという立体的に作る形をとっており、個別計画案の積み上げで今回第3次基本計画の指標を設定している状況である。</p>
事務局	<p>外来種の影響に関する認知度について、具体的にどの様に状況や数値を把握して行くのかという質問に対してお答えする。</p> <p>まず、第2次宇都宮市環境基本計画の中に、「生物多様性の言葉の意味を知っている市民の割合」という指標があるが、これは、毎年実施している市政世論調査の中で項目を設定し、その集計結果の数値を用いていた。</p> <p>「生物多様性の認知度」については、昨年度の審議会のご議論を踏まえ、「うつのみや生きものつながりプラン」の中で成果指標として設定し、第3次基本計画では、新たに「外来種の影響に関する認知度」を設定したところであり、今後はともに市政世論調査等を活用しながら把握していきたい。</p>

委員	<p>個別計画で専門性を持たせ、第3次環境基本計画とのすみわけを図ったと思うが、生物多様性の計画の中で、今まで、17.9%しか知らなかった、いわゆる「生物多様性」という言葉の認知度を75%までに引き上げる目標を掲げるのは相当すごいことだと思う。ここまで重要な事項なのであれば、第3次環境基本計画の中にも、「生物多様性」の指標が位置付けられてもよかったのではないかと思い、確認した。</p> <p>個別計画の中で具体的な事業に厚みを出すというのも一つの方法であるので、今後の成果を期待したい。</p>
事務局	<p>本年度からは第3次環境基本計画において指標を「自然ふれあい活動の体験者数」としている。認知度を高めるためには、実際に自然を肌で感じる事が重要であると考え、設定した。先ほどご指摘いただいた17.9%の認知度については、直近の平成27年度の実績値では23.9%であり増加傾向にあり、平成37年度を目標値の設定年度としている。</p> <p>具体的な方法については、環境学習センターと連携した生物多様性に関する講座の充実や、オリオンスクエアの大型映像装置を利用した生物多様性に関する情報発信、また、来年度から小学5年生を対象とした出前講座を実施するにあたり、本年度試行的に学校での講座を実施するなど、新規の事業に取り組んでいる。このような取組の成果として、本年度の速報値ではあるが「生物多様性」の認知度が27.6%と、平成26年度の17.9%から毎年少しずつではあるが右肩上がりの実績を上げている。今後も認知度に軸足を置き、施策事業の展開を図っていきたい。</p>
委員	<p>28ページの「28年度の取組状況」に「エネルギー融通、スマート街区の形成などの総合的な検討」とあるが、内容と検討状況を伺いたい。</p> <p>また、29ページの「1-3-2エコで利用しやすい交通体系の構築」の「28年度の主な取組状況」に「LRTトランジットセンター等からの端末交通による低炭素型モビリティの活用策等についても検討を開始しています」という記載があるが、内容と検討状況について伺う。</p>
事務局	<p>これらの取組については1-3-1、1-3-2も同じ事業の中で同時進行で進めているところである。実際には環境省の事業を活用し、LRT沿線のまちづくりの具体的な方策について検討しているところであり、本年度中には基本的な考え方をまとめて行く予定である。</p> <p>具体的には、「LRTトランジットセンターからその先の交通機関をどのように充実化させていくか」、「トランジットセンターをどのように低炭素化していくか」、また「今後周辺一帯で都市開発の実施が想定されるため、その際にどのような環境技術を使用すれば低炭素化が図れるか」などについて基礎調査を行っている所である。</p> <p>今後、基礎調査の結果を受け、進め方について具体的に検討していきたいと考えている。</p>
委員	<p>エネルギーの融通という部分ではどういう考え方を持っているのか伺う。</p>
事務局	<p>エネルギー融通の方法については色々な方法があるが、例えば、電気を作るときに余った熱を、周辺のホテルや病院、福祉施設などの施設で活用する「熱の融通」や、独自の電線を引き一定エリアで電気を共有するという考え方もある。</p> <p>このような様々な技術を活用してどの様なまちづくりが出来るのか、今後検討していきたいと考えている。</p>

- 委員 「自転車を利用したまちづくり」というのは宇都宮の独自性を打ち出せるものとして期待している。
- 最近では、自転車を利用する人をよく見かけるし、自転車専用の道路が整備されてきているということも感じるが、一方で自転車を利用する人の意識を変えていく必要もあるのではないかと思う。
- 例えば、オリオン通りでも係の人が看板を持ち自転車を降りるよう促しているが、係の人がいる場所だけ自転車を降り、そこを通り過ぎるとまた乗り出すという状況がある。また、学生の団体が自転車でスピードを上げてオリオン通りを通り過ぎるのはとても危険である。安全にエコを意識した「自転車を利用したまちづくり」であれば、自転車に乗る人たちの意識を変える教育を組み込んでいかないと広がっていかないのではないかと思う。これらの取組について、どのように進めていこうと考えているのか。
- 事務局 この「自転車を利用したまちづくり」については、本市で「自転車のまち推進計画」という個別計画を策定しており、ご質問の意識啓発についても施策として設けている。只今のご意見については、「自転車のまち推進計画」の所管課に申し伝えたい。
- 委員 「公共交通年間利用者数」というのが、参考資料1の1-2に、また別冊の17ページに記載されているが、この「公共年間利用者数の増加」というのはなかなかうまくいかない分野だと思っている。LRTを導入すれば単純に増えるという訳にはいかない。このままでは達成が難しい数字だと感じているので、委員の皆さんから利用者数の増加のための何か具体的なアクションの提案を期待したい。悩ましい問題で、すぐには答えは出ないが、宇都宮市にとってはかなり難しい指標であると感じているので、問題提起としたい。
- 事務局 公共交通については、LRTが公共交通全体のネットワークの軸になるという考え方で今後、整備を進めていくが、それにあわせ、総合的な公共交通ネットワークを目指し、路線バスの改編なども行っていく。市内の各拠点を結ぶ間は鉄道やLRTあるいは路線バスなどで結び、それ以外の各地域内では「地域内交通」を整備し、階層性を持った移動手段を組み合わせることで、公共交通の利用者数が伸びていくのではないかと考えているところである。現在、全庁をあげて事業者と連携しながら検討を進めて行く状況である。
- 委員 希望的目標値はあって良いと思っているので、これについては今後の動きに期待したい。
- 会長 そのほかご意見やご指摘、ご質問はあるか。
- 委員 最近、メガソーラーを各地に建設する動きがあるが、自治体によってはメガソーラー開発に当たってのマニュアルを作成している所もある。宇都宮市では、マニュアルの整備について、どの様に考えているのかお聞きしたい。
- 事務局 メガソーラーについては、各所管課で届出の手続きを行っているが、今のところ、メガソーラーに関して市民からの光害などの苦情は、出てきていない状況である。また、県と共同でメガソーラーのパトロールを適宜実施し、現状等を調査するなどの対応をとっており、現時点では、本市でマニュアルを整備する予定は無い。

- 委員 景観という点でも騒がれている部分がある。今後もメガソーラー事業は進むと思われるので、是非、宇都宮市でもマニュアルの整備を検討していただきたい。
- 委員 先程に関連する内容であるが、太陽光発電は、化石燃料を使わずに発電することができ、CO<sub>2</sub>削減の効果を見込めるが、大規模な森林伐採を伴う太陽光発電の設置の場合、CO<sub>2</sub>削減の効果がマイナスではなくプラスになってしまうこともある。見せかけだけでなく、本当にクリーンなエネルギーとなっているのか、宇都宮市でもきちんと把握していただきたい。
- 会長 議事について以上でよろしいか。  
ほかにご意見がなければ、議事は終了する。